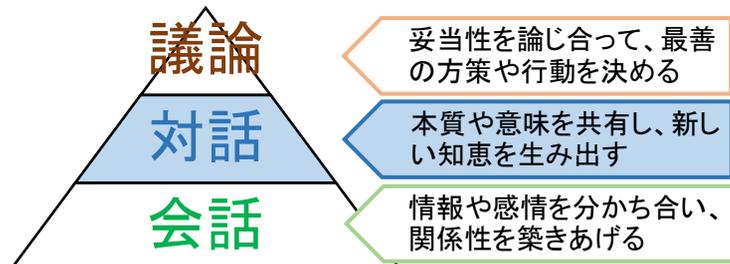




「議論ではなく『対話』で組織を活性化」

【図1】 会話と対話と議論

●対立解消に必要なことは、議論ではなく「対話」。勝ち負けを争う議論から、新たなものを創り出す「対話」に目をむけることで、組織を活性化させることができる。



【図2】 協調的コミュニケーションのための「3つの力」

●対立は決して悪いものではない。異なる視点をぶつけることで創造性を生み出せる。対立を協調的に解消する協調的コミュニケーションを進めるには、次の3つの力が必要になる。

共感力	相手を受け入れ、人と人のつながりをつくる力
本質力	両者が解決すべき本質的な課題を見つけ出す力
視点力	思考の壁を打ち破り、新たな解決策をつくり出す力

【図3】 任天堂Wii(ウィー)にみる「視点力」

●任天堂Wiiは、ゲームの新しい楽しみ方を提案した。目的を「ゲームの楽しさをアップさせること」とし、機器の高性能化は手段と考えた。機器の性能アップ競争から、楽しさをアップさせるという切り口に変えた。

- ゲーム機の高性能化はゲームの楽しさを高める手段
- 目的はゲームの楽しさをアップさせること
- 目的が達成できたら画像処理能力を上げる必要はない
- ハード競争から新しいゲームの楽しみという切り口
- 体を使って、大人数で、大人でもワイワイと遊べるものへ
- 頭から体、一人から大人数、子どもから大人への視点

●協調的コミュニケーションを生み出す3つの力

前々号でご紹介した協調的コミュニケーション術について、今月は一步踏み込んでお伝えしたいと思います。

前々号で「対立は決して悪いものではなく、適度な対立はチームを強くしてくれる」と述べました。「対立」は問題解決や意思決定の質があがり、異なる視点をぶつけあうことで創造性を生み出せます。創造性を生み出すためには、「対立」を協調的に解消し、コミュニケーションを進めることが必要です。

そのために「3つの力」が必要です。すなわち「共感力」、「本質力」、「視点力」です。

●「共感力」と「本質力」で地ならし

相手を受け入れつながりをつくる力を「共感力」といいます。共感力は相手の話をしっかり「聴く」ことで生まれます。まずは相手の懐に入ることで、お互いに信頼関係を築くようにします。

次に「本質力」ですが、解決すべき課題を見つけることをいいます。例えば、「電柱を無くす、無くさない」とう議論があったとします。この問題の本質を「子どもたちの安全な通学路の確保」として共有できれば、同じ目的をもつ仲間となり、また発想の輪が広がります。

●考え方の切り口を広げる視点力

これまでの「共感力」と「本質力」で地ならしができたら、両者が一致できる本当の課題を見つけていきます。先の二つがあって初めて自分の考えに固執することなく、お互い納得できる解決策を考えようと思うようになります。ただし、同じ内容で話しをしても前に進みませんので、「視点力」で考え方の切り口を変えて選択肢を広げるようにすることで、よいアイデアを生む可能性が高まります。

参照・引用：「ビジネス対話の技術」(産業能率大学出版部)堀公俊著より

事務所日誌

●7月の事務所の活動

- 12日 オンラインで早朝読書会「いばら朝喝同好会」に参加
- 13日 井原商工会議所「定例労務相談」相談員
- 14日 井原商工会議所 人材育成交流会 研修会に参加
- 21日 クライアント企業で人事評価制度定着ミーティング
- 25日 オンライン読書会「ゆうかつ」に参加

■編集好き

▼ハチ(蜂)の多い季節になりました。我が家でも、いつの間にか部屋にハチが入ってくることもあり、どこから入ったのかわからないので、ハチを退治したあども怖くてその部屋に入ることができません。眠れない夏になりそうです(SY)

当事務所のお仕事を紹介

●人事評価制度の説明会

先日、当事務所が推奨する人事評価制度を導入されたクライアント企業さまにおいて、導入前の制度の説明会を開催いたしました。

社員の皆さまに、きちんとお披露目するのは今回が初めて。評価というと、どうしても受け身になってしまうので、人事評価においては社員の皆さまの成長に主眼を置いていることを協調させていただきました。

写真を録り忘れてしまったので、人事評価制度を作成している風景を掲載しています(^_^)

(妹尾 悟)

